

トピックス

～地域で考える災害医療～

◆「災害時における地域医療連携の重要性」

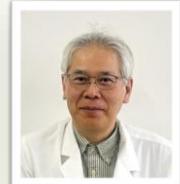
—— 救命救急部長 磨 光司

2026年 4月から

◆ 一般内科 当日受診のご相談を承ります

新年のご挨拶

地域医療連携室長 佐藤 実



皆様には、健やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。平素より当院の地域医療連携に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。ここ数年、物価の上昇が進む中で、医療においても医療資材や薬剤の調達が難しくなる場面や、人材の確保に課題が生じるなど、様々な影響が現れるようになっております。こうした状況に加え、医師の働き方改革の本格施行も重なり、限られた医療資源を地域全体で補完し合う体制の重要性が一層高まっていることを実感しております。

当院におきましても、診療体制の強化に取り組んでまいりました。昨年より、どの診療科にご紹介いただくべきか判断が難しい症例を対象に、“内科”的”の診療を新たに開始しました。かかりつけ医の先生方の診療を補完し、必要に応じて専門診療科へ速やかにつなぐことを目的としておりますので、ぜひお気軽にご相談いただければと存じます。

また、手術支援ロボットDa Vinciの症例数は順調に伸長しております。適応疾患の拡大に伴い、低侵襲かつ根治性を確保した手術の選択肢が広がることで、患者さんの術後回復や早期の社会復帰に寄与できるものと考えております。地域の皆様にも積極的にご活用いただけるよう、引き続き体制整備を進めてまいります。

一つの医療機関だけで治療を完結させるのではなく、急性期や回復期、慢性期、そして在宅医療へと続く流れの中で、患者さんを地域全体で支えていくことがこれからますます大切になると感じております。地域医療連携室では紹介・逆紹介の調整に加え、入退院支援や介護・在宅領域の皆様との連携にも取り組み、患者さんが必要な医療につながりやすいようにお手伝いしております。

本年も地域の先生方をはじめ、医療・介護・福祉に携わる皆様とともに、患者さんが住み慣れた地域で安心して過ごせる環境づくりに取り組んでまいります。皆様にとりまして穏やかで実り多い一年となりますよう心よりお祈り申し上げるとともに、今後とも変わらぬご協力を賜りますようお願い申し上げます。

まいにちから、まんいちまで。



独立行政法人 国立病院機構

北海道医療センター

災害医療

～地域で考える災害医療～

「災害時における地域医療連携の重要性」

災害医療というと、阪神淡路や東日本のような大規模災害を思い浮かべる方が多いかもしれません。

しかしその地域に住む住民にとってより切実なこととして、生活基盤の破壊に加えて、生きしていくために必要な医療が受けられなくなるという重大な問題があります。震災そのものによって一定数の人が直接的に命を失うことは、ある意味で避けられないかもしれません。しかし医療リソースの喪失により、震災の間接的な影響によって生命が危機に晒されることは、これは何としても避けたい事態です。たとえば胆振東部地震のとき、札幌市内では地震そのものの影響は僅かでしたが、停電や断水によって血液透析や人工呼吸療法といった通常の医療が提供できなくなった医療機関が続出したことは、記憶に新しいところです。幸いに胆振東部地震の被害は3日程度でほぼ復旧しましたが、能登半島地震の例ではその後約3か月にわたって、「平時の医療を継続するため」に外部からの継続支援を必要とする状況となりました。



後者、すなわち災害の間接的影響による死亡を「災害関連死」と表現しますが、もし事前に病院ごと、あるいは病院間できちんと対応計画を立て、協力関係を構築しておけば、これら災害関連死は最小限に抑えることが可能なはずです。俗に自助・共助・公助と言いますが、災害における自助とはBCRP策定を含めた自施設のresiliencyの強化、公助は行政やDMAT・JMATなどの公的支援を指します。そしてその間を繋ぐものとして共助；すなわち地域の医療機関・施設間の協力関係の構築が必要だと考えています。

—— 北海道医療センターでは令和7年度より、災害時の病院管理 (BCM: Business Continuity Management) に関する勉強会を開始しました。災害時の自助・共助・公助について一緒に議論し、より良い対応を考えて実践していく場になればと考えています。

今後も年に2回程度の定期開催を行っていく方針ですので、ご興味のある方は、ぜひご参加いただけますと幸いです。



救命救急部長
裕 光司



診察・検査したけど、なんだか原因がはっきりしない…



なんてことありませんか？

北海道医療センター 一般内科では、
“原因がはっきりしない、でも何か変…”といった症状や病態に対し、
詳しい検体検査・画像検査をもとに原因を究明し、診断に基づき治療を行うほか、必要に応じて専門診療科につなぎます。



4月より、当日受診のご相談も承ります。

月・火・木・金の午後2枠

当日のご予約は、【14時までの電話連絡】【15時までの来院】
にご協力をお願いいたします。水曜日については予約枠を設けて
おりませんが、お急ぎの症例がございましたらご相談ください。

地域の皆様に頼りにしていただける存在であり続けたいと考えてお
ります。お困りの方がいらっしゃいましたら、ぜひご相談ください。

◆一般内科にご紹介いただいている一例◆

—— 持続する発熱

—— 体重減少、倦怠感

—— 貧血、むくみ

—— 何かおかしい…



一般内科

地域医療連携室長 : 佐藤 実

地域医療連携室副室長 : 白戸 めぐみ

地域医療連携係長 : 篠原 恵里

医療連携室副看護師長 : 鈴木 かおり

主任医療社会事業専門員 : 濱口 晃郎

TEL : 011-611-8116 (連携室直通)

011-611-8111 (代表)

FAX : 011-611-8112 (連携室直通)

ホームページ : <http://Hokkaido-mc.hosp.go.jp/area/index.html>

まいにちから、まんいちまで。



独立行政法人 国立病院機構
北海道医療センター